

平成31年度・令和元年度

年 報

第 27 号



福井県自然保護センター

は じ め に

福井県自然保護センターは大野市の六呂師高原に平成2年7月に開設され、令和元年度でちょうど30年目を迎えました。開設以来、福井の山や田んぼに生息している動植物の展示、天体観望会、自然観察の森ガイドや自然再生活動、資料収集や調査研究などにより、本県の自然の素晴らしさや楽しさを、広く県民の皆様にお伝えしています。

こうした歴史のある当センターの所長として、私は昨年6月1日に赴任し、まずは「可能な限り積極的にセンターの事業に参加してみよう」と心に決めました。

その後すぐ、センター敷地内でツキノワグマの子どもと遭遇し目が合ったのには驚きました。法恩寺山での里山ウォーキング、天体観望会、傷ついたコハクチョウの保護、鷹匠による実演などを体験し、晴れた日の六呂師高原の美しさに見とれ、空気の冷たさや草木の匂いに清々しさを感じ、生きた鳥や獣を目の当たりにしてドキドキし、カブトムシを触って子供の頃のようにワクワクしました。

当センターを訪れる多くの人々にも、自分の目で見て触って、いろんなことを体験し、ワクワク、ドキドキしながら草花、鳥、昆虫、天体等の面白さ、奥深さを味わってもらいたいと思います。

今年に入ってから新型コロナウイルスが世界中で大流行しているほか、毎年、国内のどこかで発生している大規模な自然災害の際にも、自然の力の大きさや怖さ、人間の無力さを思い知らされます。

私たちは、自然の中で他の生き物の生命をいただきながら生きて、日々の生活の便利さ快適さと引き換えに自然環境にさまざまな負荷を与えています。

こうした生態系の仕組みや生命の大切さを理解してもらうきっかけをつくり、人と生き物が共に寄り添って生きる「共生」に向けて活動していくことが当センターの役割です。

この年報は、当センターの一年間の事業活動を取りまとめ、その歩みの記録として毎年度発刊しています。今後とも、福井の豊かな自然を私たちの子孫に継承していけるよう、

活動を続けてまいります。

最後に、日頃より当センターの事業を支えていただいている運営会議委員、自然観察指導員の会、各天文クラブをはじめとする関係団体の皆様など多くの方々に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

福井県自然保護センター所長 竹 原 秀 夫

目 次

I	自然保護センターの概要	1～3
1	施設の概要	1
2	施設の平面図・面積表	2
3	組織と事業概要	3
II	自然保護センターの事業の展開	4～27
1	展示事業	4～6
	(1) 常設展示 (2) 特別展や写真展示など (3) 生体展示	
	(4) 冬の野鳥レストランの開設 (5) 入館者数	
2	指導普及事業	7～18
	(1) 自然観察会などの企画開催 (2) 天体観望会の企画開催	
	(3) 館内・自然観察の森ガイド (4) 特別企画など	
	(5) 生き物百葉箱事業 (6) インターネットによる自然情報の発信	
	(7) 普及誌の発行 (8) 傷病鳥獣救護	
	(9) 自然に関する相談	
	(10) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア（重点活動地域）への支援事業	
	(11) 侵略的な外来種防除対策	
3	研修養成事業	19～20
	(1) ナチュラリスト養成 (2) ナチュラリストリーダー養成 (3) 研修生受け入れ	
4	資料収集事業	21
	(1) 標本資料 (2) 視聴覚資料 (3) 文献資料 (4) 天文写真資料	
5	調査研究事業	22～24
	(1) 渡り鳥保全調査（鳥類繁殖状況調査）	
	(2) カモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）	
	(3) カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）	
	(4) ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）	
	(5) ヤシャゲンゴロウ生息域外保全事業	
	(6) Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行	
6	その他	25～27
	(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催	
	(2) 大型野生動物の救護・放獣に関わる指導協力	
	(3) 職員の派遣 (4) イベント等での出張展示	
	(5) 委員の受託など (6) 事業協力を行った関係団体	
III	そ の 他	28～34
1	1年のあゆみ	28～29
2	施設利用実績	30～31
3	運営会議	32
4	関係条例・規則	33～34

I

自然保護センターの概要

1 施設の概要

1. 所在地：福井県大野市南六呂師169-11-2

2. 施設の概要

(1) 本館（平成2年度完成、平成14年度展示更新）

- ①面積 建て面積：1,151.13m² 延べ面積：2,111.27m²
- ②構造 木造・鉄筋コンクリート混構造3階建て（地下1階、地上2階）
- ③施設 1階：展示室、レクチャーホール、ボランティアルーム、事務室等
2階：展示室、森の学習室、工作室、会議室等
地下：資料室、飼育室等

(2) 観察棟（平成元年度完成）

- ①面積 建て面積：209.62m² 延べ面積：418.86m²
- ②構造 鉄筋コンクリート3階建て
- ③施設 1階：プラネタリウム室（座席44名）、事務室
2階：野外観察室（観察用望遠鏡設置）
3階：天体観測室（80cm反射式望遠鏡1台、付属望遠鏡設置）

(3) 自然観察小屋2棟（平成3年度完成）

- ①面積 1棟の建て面積：19.72m² 1棟の延べ面積：27.36m²
- ②構造 木造2階建て
- ③施設 1階、2階：動物観察室

(4) 自然観察の森（平成4年度完成）

- ①面積 約28ha
- ②施設 広 場：学習広場、ファミリー芝生広場
遊歩道：アプローチ道路やとんぼの小径など
湿原等：妻平湿原、馬取池、とんぼの池

3. 自然保護センター開館日

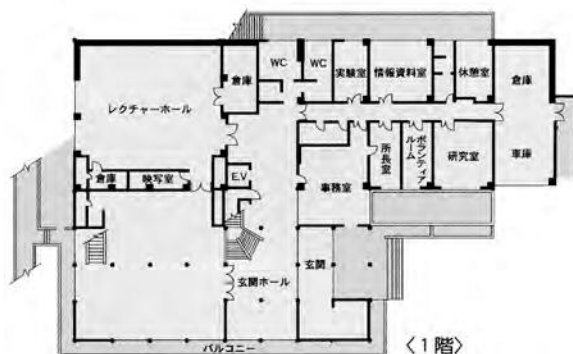
平成2年7月12日

2 施設の平面図・面積表

本館



〈2階〉



〈1階〉



〈地下1階〉

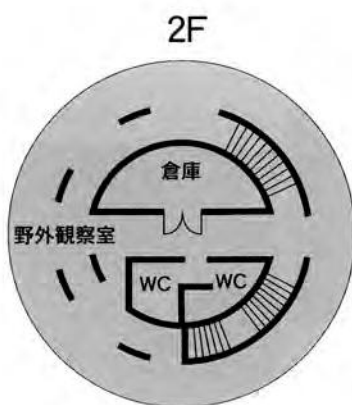
本館面積表(2,111m²)

地 階		1 階		2 階	
室 名	面積(m ²)	室 名	面積(m ²)	室 名	面積(m ²)
一般資料室	69	展示室	313	展示室	277
乾燥資料室	43	レクチャーホール	165	森の学習室	60
飼育準備室	23	事務室	61	資料室	28
飼育室(4室)	54	所長室	20	工作室	84
機械室	95	ボランティアルーム	19	工作準備室	22
電気室	28	研究室	40	会議室	52
廊下・ブローワー室	103	休憩室	28	倉庫	43
ポンプ室・エレベーター		情報資料室	35	暗室・便所・その他	67
他		実験室	20		
		映写室	11		
		車庫	76		
		倉庫	29		
		廊下・更衣室・ポーチ	246		
		玄関・便所・他			
合 計	415(m ²)		1,063(m ²)		633(m ²)

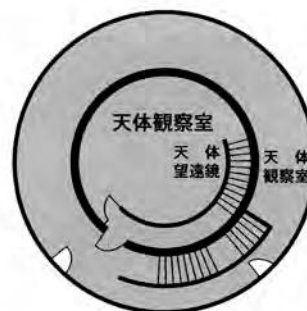
観察棟



1F



2F



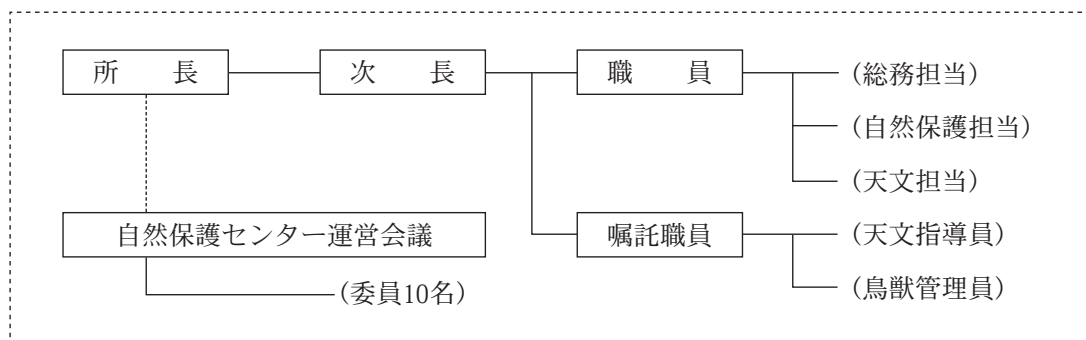
3F

観察棟面積表(418m²)

階	室名	面積(m ²)	計
1	プラネタリウム室	45	132m ²
	ホール	41	
	事務室	16	
	玄関・倉庫・その他	30	
2	観察室	111	154m ²
	倉庫	15	
	その他	28	
3	天体観察室(内)	45	132m ²
	天体観察室(外)	67	
	階 段	20	
合計			418m ²

- 1階 プラネタリウム室 44名収容 スクリーン直径6.5m
 2階 野外観察室 50名収容 2台の野外観察用望遠鏡-動・植物の観察
 3階 天体観察室 50名収容 口径80cmの反射望遠鏡1台 口径10cmの屈折望遠鏡2台
 口径20cmの屈折望遠鏡1台 口径20cmの反射望遠鏡3台
 TVカメラ装置の設置

3 組織と事業概要



■職員構成 (令和元年度)

職 種 \ 担 当	所 長	次 長	総 務	自然保護・天文	計
事 務	1	1	1	1	4
自 然 保 護 職				2	2
教 職 員				1	1
嘱 託 職 員				2	2
計	1	1	1	6	9

■事業概要 (令和元年度)

- 展示事業 ・ ・ ・ ・ ・
 - 常設展示
 - 特別展や写真展など
 - 特別企画
 - 生体展示
 - 冬の野鳥レストランの開設
- 指導普及事業 ・ ・ ・
 - 自然観察会・自然講座・天文教室の実施
 - 天体観望会・プラネタリウムの実施
 - 生き物百葉箱推進
 - 普及誌の発行、自然情報・イベント情報の発信
 - 自然愛護事業（傷病鳥獣救護を含む）の実施
 - 自然に関する相談、対応
 - 館内・自然観察の森ガイドの実施
 - 重要里地里山の保全活動、生き物共生ホットエリア等への支援事業
 - 侵略的な外来種防除対策
 - 自然観察会・自然講座・天文教室の実施
- 研修養成事業 ・ ・ ・
 - ナチュラリスト、ナチュラリストリーダーの養成
 - 研修生の受け入れ
- 資料収集事業 ・ ・ ・
 - 標本・視聴覚・文献・天文写真資料の収集および保管
- 調査研究事業 ・ ・ ・
 - 渡り鳥保全調査
 - カモ科鳥類生息調査
 - カワウ生息調査
 - 自然観察の森周辺環境調査
 - ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）
 - ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業
- その他 ・ ・ ・ ・ ・
 - 福井県自然保護関係機関連絡会議
 - 大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力
 - 事業協力を行った関係団体
 - 職員の派遣

Ⅱ

自然保護センターの事業の展開

1 展 示 事 業

自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開し、県民に自然の素晴らしさと保護の重要性を伝えた。

(1) 常設展示

本館（平成14年度に更新）

【1階】

「自然観察へ行こう」
「福井の水辺を考える」
「刈込池のブナ林」
「レクチャーホール標本展示」

【2階】

「森の仲間たち」 「福井の自然観察三昧」
「山のめぐみ」 「失われ行く生物多様性」
「生物を守る努力」
「地球環境問題を考える・エコロ人度チェック」
「森の学習室」 「ビデオコーナー」

観察棟

【1階】

「太陽系展示パネル」
「天体写真」コーナー

【2階】

「隕石」コーナー
「彗星」写真コーナー

(2) 特別展や写真展示など

タイトル	期間	会場	主な展示物
愛鳥週間ポスター 入賞作品展	4月22日～ 5月11日	1階レクチャーホール	県内児童が描いた愛鳥週間ポスターの入賞作品（主催：自然環境課）
特別展示 六呂師高原の ケモノたち	4月27日～ 7月15日	1階レクチャーホール	六呂師高原に生息する獣類の剥製、六呂師高原を中心に撮影したセンターカメラの映像
ふくい星空写真展	7月20日～ 9月23日	1階レクチャーホール	過去3年以内に福井県内で撮影された一般公募の写真約50点
ミニ展示 ふくいの猛禽 類展	7月20日～ 8月31日	2階 学習室	県内に生息する猛禽類の剥製および解説ポスター
白山国立公園 パークボランティア 写真展	令和2年 1月26日～ 2月5日	1階レクチャーホール	パークボランティアが撮影した白山国立公園の写真（主催：環境省白山自然保護官事務所）
ミニ展示 池ヶ原湿原展	令和2年 2月16日～ 4月5日	1階レクチャーホール	池ヶ原湿原解説ポスター、湿原の植物写真、平泉寺小学校作成のジオラマ、ヨシを利用した工作物

(3) 生体展示

タイトル	期間	会場	主な展示物
ヤシャゲンゴロウ	年間	1 階玄関ホール	ヤシャゲンゴロウ（成虫）
北潟湖や池ヶ原湿原の水生生物	年間	1 階玄関ホール	スッポン、イシガメ、クサガメ、ドジョウ、クロゲンゴロウ、オオコオイムシ等
自然観察の森の生きものたち	7 月～12 月	1 階玄関ホール	ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタ等
タッチコーナー	7 月～8 月	本館玄関	カブトムシ

(4) 冬の野鳥レストランの開設

野鳥の餌が少ない冬期間（令和 2 年 1 月 5 日～2 月 29 日）に、屋外に餌台を設置し、野鳥を室内から観察できる場を設けた。

令和元年度に確認された野鳥は 23 種であった。例年どおりヤマガラが多く見られたが、シジュウカラが例年と比べ少なかった。前年と同様、降雪量が極端に少なく、その影響で野鳥の訪問回数は少なかったが、エナガやアトリ、ミヤマホオジロが例年と比べ多く訪れ、来館者の目を楽しませた。

令和元年度は、来館者がより間近で観察できるように、野鳥の止まり木を昨年より近い場所への設置や、野鳥の動画をホームページで紹介するなどの新しい試みを実施した。

観察された野鳥

順位	種名	回数
1	ヤマガラ	1,963
2	エナガ	1,431
3	アトリ	824
4	コガラ	634
5	シジュウカラ	614
6	ヒヨドリ	348
7	ゴジュウカラ	309
8	コゲラ	304
9	ミヤマホオジロ	246
10	アカゲラ	238

順位	種名	回数
11	メジロ	218
12	ツグミ	164
13	カケス	137
14	カシラダカ	50
15	オオアカゲラ	17
16	アオゲラ	14
17	ウソ（アカウソ）	4
18	キジバト	5
19	ミソサザイ	3
20	モズ	1
20	シメ	1
20	マヒワ	1
20	キバシリ	1

期間中入場者数

月	令和元年度	平成30年度
1 月	944	1,031
2 月	1,044	1,051
計	1,988	2,082

(5) 入館者数

	平成31年度・令和元年度 人数（人）	累計人数（人）
本 館	21,384	643,497
観察棟	8,807	416,982
計	30,191	1,060,479

ただし、観察棟入館者数は、天体観望会の参加人数を含む。

＜入館者の推移＞

年度	本館入館者	観察棟入館者	合計入館者
H25	17,127	10,205	27,332
H26	21,301	12,203	33,504
H27	18,807	11,493	30,300
H28	25,530	12,591	38,121
H29	24,988	12,048	37,036
H30	22,752	10,381	33,133
H31・R1	21,384	8,807	30,191

2 指導普及事業

自然保護の指導普及のために、以下の事業を実施した。

- ・自然を知り学ぶための普及啓発行事の企画、開催
- ・自然情報の発信
- ・自然や傷病鳥獣に関する相談回答
- ・生物多様性の保全のための調査や支援活動

(1) 自然観察会などの企画開催

自然教育や自然保護の普及啓発のために、以下のとおり自然観察会等を企画、開催した。

◆自然観察ウォーク

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
新緑の池田志津原溪谷を歩こう	5月25日(土)	池田町志津原	28
足羽川上流に位置する志津原の川岸に造られた遊歩道を歩き、植物や生き物を観察した。また、福井市自然史博物館特別館長の吉澤康暢氏から、両岸に表出する皿尾層の地層や岩石についての説明を受けた。			
初夏の香りの法恩寺山	6月8日(土)	勝山市法恩寺山	20
法恩寺山の中ノ平避難小屋周辺で初夏の風に揺れる色とりどりの植物を観察することができた。「ねまり杉」とよばれる巨木について樹齢などの説明を受けた。			
柳ヶ瀬山と玄蕃尾城の自然と歴史	9月7日(土)	敦賀市刀根	25
初秋の柳ヶ瀬山の植物・昆虫の観察に加え、元敦賀市立博物館館長の川村俊彦氏から、戦国時代に柴田勝家が築いた玄蕃尾城の歴史や構造について説明を受けた。			
三里浜砂丘の森を歩こう	10月26日(土)	坂井市三国町	20
数十年の歴史を持つ人工的に造られた森を歩きながら、様々な樹木や昆虫を観察した。残念ながらラッキョウの花の満開の時期には早かったが、ラッキョウ農家の苦労などを聞くことができた。			
スノーシューで森の探検!	2月8日(日)	自然保護センター	28
積雪の少ない中でのスノーシュー体験であったが、動物の足跡やクマ棚、昆虫の卵、植物など幅広い分野の観察をすることができた。			
池ヶ原湿原ガイド	5月18,25日 6月1,8,15,22,29日 7月6,13,20日	勝山市平泉寺町池ヶ原	48
5月18日～7月20日の毎週土曜日11:00～12:00、13:15～14:15の2回、延べ20回の観察会を実施した。計48名の参加者に湿原の自然を感じてもらうとともに、見頃の生物や湿原の歴史、保全活動の内容について解説した。			

◆夏休み標本教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
美しい植物標本を作ろう	7月20日(土)	自然保護センター	23
あいにくの雨模様での植物採集となったが、参加者は親子で協力しての標本作りに取り組み、とても楽しそうな様子であった。			
作ってみよう昆虫標本	8月3日(土)	自然保護センター	38
普段、親子で昆虫採集をする機会が少ない参加者にとって、貴重な体験となった。採集の後は、「丁寧」を課題に標本作りに取り組んだ。			

◆自然保護セミナー

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
愛鳥教室「雁行観察会」	12月14日（土）	福井県立芦原青年の家	29
鴨池から採餌場所までの通過地点での雁行を観察した。採餌場所へ移動し、多くのマガンを観察することができた。日本野鳥の会の田尻浩伸氏から、渡り鳥の生態や餌となる稲穂などとの関係についての講演を聞くことができた。			

(2) 天体観望会の企画開催

◆天文教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
春の星座めぐり	4月28日（日）	自然保護センター 観察棟	36
春の星座や天体をプラネタリウムで学んだあとに、実際に野外に出て星座観察を40分間、天体望遠鏡で銀河等の天体観察を40分間、解説を聞きながら楽しく体験する教室である。この日は晴天で予定していた天体を全て観察することができた。少々風があり寒かったが、参加者は満天の星空を十分に堪能することができた。			
星景写真の撮影に挑戦(固定撮影1)	6月2日（日）	自然保護センター 観察棟	14
ここ数年実施している撮影教室だが、今回は写真愛好家が非常に多く、求められたレベルが高かったように感じた。参加者にはある程度の知識が備わっていたため、実践時間を多く確保したかったが、21:00には完全に雲の中であったため、撮影できたのは20分間ほどであった。			
天体望遠鏡を作ってみよう！	7月21日（日）	自然保護センター 本館・第1駐車場	31
例年実施している人気の教室である。今年も参加者全てが親子であり、子どもたちも安心して望遠鏡づくりを楽しんでいた。今回は残念ながら曇天のため天体観望はできなかったが、室内で望遠鏡の焦点を合わせる練習をし満足度は高かった。			
夏の星座めぐり	8月2日（金）	自然保護センター 観察棟	34
開催時間のほとんどが曇りであったため、プラネタリウムにて星座解説と星座にまつわる物語、星空写真展の写真解説等を実施した。わずかに晴れ間があったため、プラネタリウムの途中でも野外に出て観望をした。天候による内容の変更でやや慌ただしくなってしまったため、今後は悪天候時のプログラムに工夫が必要である。			
スマホやケータイで星を撮ろう	8月6日（火）	自然保護センター 観察棟	19
自由研究対策のため、撮影方法の資料とワークシートを配布し解説した。また、スマホでの撮影時には、専用のアダプターを装着し、手振れ解消に役立てた。月はたいへんきれいに撮影できるが、木星や土星は、カメラの感度がマニュアルで調節できる高性能のケータイでないとうまく撮影できないため、今後の課題である。			
天の川の撮影に挑戦！(固定撮影2)	8月31日（土）	自然保護センター 観察棟	6
予報通りの雨天であったためキャンセルが多く、講話のみの実施となった。ほとんどが6月に開催した教室の参加者であり、熱心なカメラ愛好家ばかりであった。今回は天の川の見られる時期をプラネタリウムでしっかりレクチャーし、月明かりの影響や光害について詳しくレクチャーした。			
秋の星座めぐり	10月25日（金）	自然保護センター 観察棟	6

雨天のため、プラネタリウムの上映と望遠鏡の解説のみの実施となった。プラネタリウムは秋の星座について、いつもより時間をかけて解説をした。また、黄道十二星座の星の並びをクイズ形式で紹介した。			
冬の星座めぐり	3月13日（金）	自然保護センター 観察棟	中止
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。			

◆特別天体観望会

特異な天文現象や大型連休に合わせて、冬期を除いて年間6テーマ（のべ8日間）の特別天体観望会を計画・実施した。悪天候時はプラネタリウムの投影や天体ドームにおいて、望遠鏡の紹介や天文に関する解説などを実施した。

テーマ	実施月日	参加人数(人)	
星空観望ゴールデンウィーク ～春の銀河とみずがめ座流星群～	4月29日（月祝）	9	計 90
	5月5日（日祝）	81	
	5月6日（月振）	0	
GW観望会は3日間の開催中、5日（日祝）は晴天のもと天体観望ができたが、2日間は雨天のためプラネタリウムを実施した。みずがめ座流星群は6日の夜がピークだったため、流星群の解説のみとしたが、5日（日祝）には多少の流星群を観察することができた。流星を発見した参加者の喜ぶ姿が印象的であった。			
七夕の夜 ～織姫星と彦星をみよう～	7月7日（日）	29	
観望会当日は雨天であったため、望遠鏡や肉眼での観望はできなかった。今回は、前日からの予報で悪天が予想されたため、雨天時の準備は十分にできた。天体ドームでの解説内容や、観望会開始からプラネタリウムの終了までのタイムスケジュールはスムーズに進行でき、参加者にもある程度満足していただけた。			
ペルセウス座流星群ってなあに？	8月12日（月祝）	143	
例年実施している天文教室「ペルセウス座流星群をみよう」は定員制で、20時～24時までの教室であった。しかし、今年は月明かりのため、多くの流星の観察が難しいと判断し、通常の特別観望会の形態とした。また、ペルセウス座流星群については、観察方法などの解説のみとした。今回は予想通り、月の明るさや雲の影響のため、流星は全く見えなかった。			
中秋の名月	9月13日（金）	79	
当日は天気予報通りのくもりのち晴れであったため、一般参加者数は45名に留まった。プラネタリウムは月が見えなかった時間帯19：30～、20：05～からの2回実施し、月が見え始めた20：35からは野外での解説を実施した。21：00以降は土星や木星も見え始めたが、ほとんどの参加者が退館した後だった。			
月・木星・土星をみよう ジャズの音色を聞きながら	9月15日（日）	241	
開始前に少し雲がかかっていたが、天気予報通りの晴れであった。計画通り、野外でジャズバンドと星空解説を実施した。ジャズバンドとは事前に入念な打ち合わせを行い、会場である観察棟の野外南側の照明やスペース確保には工夫を凝らした。星空解説15分のちジャズ演奏20分の約40分を3回ローテーションした。土星・木星・月の観望とジャズの演奏のコラボに参加者のほとんどが満足した様子であった。			
アンドロメダ大銀河と天王星・海王星をみよう	11月3日（日祝）	67	
開始時には曇天だったため、天体ドームにて天体や望遠鏡の解説をし、19：15からプラネタリウムを実施した。また、19：15以降に来館した参加者は3Fへ、その後20：00から2回目のプラネタリウムを実施した。20：30以降は雲がなくなり、アンドロメダ銀河等が観望できた。			
計 6 テーマ	のべ実施日数： 8 日	計 649	

◆天体観望会

一般来館者を対象に、4月～12月、3月の土曜日の夜に「週末天体観望会」を実施した。（曇天・荒天時はプラネタリウム）また、「昼の天体観望会」は、日中の来館者を対象に、太陽や金星、1等星などの観望を行った。この他、事前申し込みによる団体を対象に天体観望会を実施した。

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象 週末天体観望会	35	943
一般対象 昼の天体観望会	197	1,196
団体対象 天体観望会	38	1,735
計	270	3,874

◆プラネタリウム・冬の星空ガイド

一般来館者および事前申し込みによる団体を対象に、プラネタリウムの投影を行った。一般を対象としたプラネタリウムは、4月～12月、3月の土曜日・日曜日・祝日に1日4回実施した。また、1～2月の土曜日・日曜日・祝日には「冬の星空ガイド」として、本館で天体シミュレーションソフトやパワーポイントを用いた星座解説や星座物語の上映を実施した。

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象 プラネタリウム（土・日曜日・祝日） （うち 冬の星空ガイド1～2月）	255 (37)	1,659 (207)
団体対象 プラネタリウム （うち 冬の星空ガイド1～2月）	71 (3)	2,515 (74)
計 （うち 冬の星空ガイド1～2月）	326 (40)	4,174 (281)

○観察棟利用者へのしおり配布について

観察棟の来館記念として、来館者全員に天体関係のオリジナルのしおりを1枚ずつ配布した。団体利用者には、観察棟パンフレットと一緒にまとめて配布した。しおりは、星座シリーズ27種、天体シリーズ16種、惑星・太陽・月シリーズ11種があり、季節に応じて10種ずつ準備し、リピーターには異なったしおりを選べる様にした。

（3）館内・自然観察の森ガイド

- ・「四季の自然観察シリーズ」として、4月～10月の日曜日、祝日に一般来館者を対象に1日2回、自然保護センター館内および自然観察の森のガイドを行った。（実施：42回、参加者：396人）
- ・「冬の野鳥レストラン」として、1月～2月の土・日・祝日に野鳥観察ガイドを行った。
（実施：11回、参加者1,055人）
- ・事前申し込みによる団体を対象に、センター周辺で「館内・自然観察の森ガイド」を実施した。
（32団体、1,522人）

平成31年度・令和元年度館内・観察の森等解説ガイド実績（一般）

	四季の自然観察シリーズ								冬の野鳥レストラン		
月	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	計
回 数（回）	5	9	5	5	5	7	6	42	5	6	11
参加者（人）	53	125	27	60	37	64	30	396	443	612	1,055

平成31年度・令和元年度自然観察の森解説ガイド（四季の自然観察）一覧

実施日	曜日	テ　　ー　　マ	講　師
4/14	日	コシアブラで遊ぼう	山田 儀一
4/21	日	春を見つけよう	田渕 千鶴子
4/28	日	春の妖精 カタクリ	源野 みね子
4/29	日祝	水生昆虫を見てみよう	矢村 健一
4/30	火祝	スプリング・エフェメラルとギフチョウに会おう	櫻井 知栄子
5/1	水祝	ミチノクフクジュソウの秘密	多田 雅充
5/2	木休	里山再生で蘇ったギフチョウ	北川 博正
5/3	金祝	春植物を見に行こう	源野 みね子
5/4	土祝	春の森を歩いてみよう	北川 博正
5/5	日祝	森のようちえん 楽校	大石橋 節子
5/6	日振	春植物をさがそう	廣野 栄美
5/12	日	新緑の森を歩こう	田渕 千鶴子
5/19	日	気候療法で春の森を歩こう	牧野 晃治
5/26	日	森でワクワク・ドキドキ体験	吉田 眞美子
6/2	日	初夏の雑木林	多田 雅充
6/9	日	水辺の生きものたち	田中 俊之
6/16	日	馬取池の生き物と環境について探ってみよう	井草 貴男
6/23	日	初夏の昆虫を探そう	伊藤 勝幸
6/30	日	森でワクワク・ドキドキ体験	吉田 眞美子
7/7	日	モリアオガエルの卵、オタマジャクシを見に行こう	朝日 正之
7/14	日	小さい生きものを観察しよう	浅利 裕美
7/15	月祝	森の不思議を探しに行こう	斎藤 寿子
7/21	日	高原の生きものたちは	井部 正興
7/28	日	猛暑の森の中は？	石田 善之
8/4	日	葉っぱの不思議を探そう！	廣野 栄美
8/11	日祝	真夏の高原の生きものたちは	井部 正興
8/12	月振	甲虫を探そう	伊藤 勝幸
8/18	日	夏の虫たち	伊藤 勝幸
8/25	日	夏の森を歩いてみよう	矢尾 政士
9/1	日	生きものの不思議を見つけよう	矢尾 政士
9/8	日	森のふしぎな玉手箱をあけてみよう	斎藤 寿子
9/15	日	水辺の生きものたち	田中 俊之
9/16	月祝	森のようちえん 楽校	大石橋 節子
9/22	日	赤とんぼってなぁに？	井草 貴男
9/23	日祝	森のようちえん 楽校	大石橋 節子
9/29	日	森のたからものさがし	小林 則夫
10/6	日	気候療法で秋の森を歩こう	牧野 晃治
10/13	日	葉っぱで遊ぼう	山田 儀一
10/14	月祝	たねのさくせん	山田 洋子
10/20	日	ススキにノビタキを探そう！	酒井 敬治
10/22	火祝	秋の実をさがそう	櫻井 知栄子
10/27	日	赤とんぼとバッタをつかまえよう	矢村 健一

(4) 特別企画など

ゴールデンウィーク、夏休み、六呂師高原アルプス音楽祭などの連休等に特別企画イベントを開催し、入館者の増を図った。

＜令和元年度連休等での特別企画の実施状況＞

特別企画の内容	実施月日	場所	参加者
ゴールデンウィーク特別企画 「森の材料で工作しよう」	5月3日～ 5月5日	工作室	182名
夏休み特別企画 「土曜の夜はライトトラップだ」	8月3日 7月27日(中止)	学習広場	79名
夏休み特別企画 「鷹匠デモンストレーション」	8月11日	学習広場	286名
アルプス音楽祭 「しおり作り」	9月15日～ 9月16日	ウォーキングセンター	291名
アルプス音楽祭 「森の材料で工作しよう」	9月15日～ 9月16日	ウォーキングセンター	265名

(5) 生き物百葉箱事業

小学校などの子どもを含む団体が自主的に行う身近な自然環境の観察や調査を支援し、継続的な調査や生態系の保全・再生の必要性を学ぶことを目的とした事業で、継続的な自然観察をする団体の登録、登録団体への教材(生き物図鑑下敷き)の配布、講師(環境アドバイザー)の派遣を行った。

・登録人数(団体数) 6,059人(190団体)

・環境アドバイザーの派遣回数 11回(派遣人数 年間21人、受講者人数 年間357人)

(登録グループ別内訳)

グループ名	登録数	登録人数
学 校	46	2,162
団 体	62	2,801
放課後クラブ	8	248
公民館	14	518
子供会	2	69
一 般	57	206
エンゼルランド	1	55
合 計	190	6,059

(6) インターネットによる自然情報の発信

①ホームページによる情報発信

更新：年84回、年間アクセス件数：73,714件

②フェイスブックページによる情報発信

更新：年35回、年間アクセス件数：17,636件

③メールマガジン「みみずく通信」による情報発信

・購読者の増加を図るため、携帯電話用のメールマガジンをPC版と併せて配信

・PC版「みみずく通信」 配信回数：年間38回、累計368号(2006年1月より)
配信人数：836人

・携帯版「みみずく通信」 配信回数：年間38回、累計305号(2010年11月より)
配信人数：221人

(7) 普及誌の発行

自然保護の普及啓発誌である『ナチュラリスト』を年間3号発行した。なお、87号は海浜自然センターで、88、89号は自然保護センターで編集発行した。

発行年月日	巻号	通算	特集内容
令和2年2月4日	第30巻1号	87号	ズワイガニの世界
令和2年2月27日	第30巻2号	88号	自然保護センターの資料収蔵室と標本資料
令和2年3月19日	第30巻3号	89号	ふくいSATOYAMA学級 2020行事案内

(8) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣の救護は、社団法人福井県獣医師会への救護委託および傷病鳥獣保護飼養ボランティア制度の活用によって実施した。平成31年4月1日付けで福井県傷病鳥獣救護等取扱要綱を改正し、生物多様性の考え方および社会情勢を踏まえ、救護の対象を希少種や傷病の発生原因が人的な場合などに対応することとなった。このことから平成31年度・令和元年度の傷病鳥獣の救護、治療件数は前年度と比べ減少した。

平成31年度・令和元年度の傷病鳥獣の救護、治療件数は全体で108件、110個体であった。このうち、その内訳は鳥類104件106羽(96.4%)、哺乳類4件4頭(3.6%)であった。鳥類ではツバメ22羽(20.8%)、スズメ19羽(17.9%)、トビ7羽(6.6%)が保護された。哺乳類ではキツネ、タヌキ、ハクビシン、ムササビが各1頭保護された。

自然保護センターの救護個体の放野率(放野個体数/放野個体数+死亡・安楽殺個体数)は、41.8%であった。

① 傷病鳥獣の保護飼養数(自然保護センター取扱い) 過去10年間のみ詳細を掲載(件・個体数)

年度		H2~21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	累計
分類	件数	1,145	89	74	96	75	75	81	79	81	62	35	1,892
	個体数	1,691	128	104	121	116	96	127	95	109	87	35	2,709
哺乳類	件数	222	11	13	9	6	9	6	8	13	6	1	304
	個体数	247	12	29	9	7	9	7	11	13	8	1	353
計	件数	1,367	100	87	105	81	84	87	87	94	68	36	2,196
	個体数	1,938	140	133	130	123	105	134	106	122	95	36	3,062

※ 福井県獣医師会による治療後、自然保護センターが扱った個体を含む。

② 傷病鳥獣の治療数(福井県獣医師会取扱い) 過去10年間のみ詳細を掲載(件・個体数)

年度		H2~21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	累計
分類	件数	4,156	260	201	260	228	227	232	209	249	103	69	6,194
	個体数	4,236	267	208	270	241	234	240	216	264	104	71	6,351
哺乳類	件数	421	16	19	21	24	22	18	22	18	7	3	591
	個体数	437	16	19	21	24	22	18	23	18	7	3	608
計	件数	4,577	276	220	281	252	249	250	231	267	110	72	6,785
	個体数	4,673	283	227	291	265	256	258	239	282	111	74	6,959

※ 自然保護センターから治療のために委嘱獣医師に搬送した個体数も含む。

③ 救護した鳥獣種とその結果

(個体数)

鳥獣名（鳥類）	放野	死亡	安楽殺	飼養継続	その他	合計
マガモ			1			1
カルガモ	1	1	1			3
キジバト	1	1				2
キジ	1					1
ハシブトガラス		1				1
ドバト	2	2				4
カワウ		1				1
スズメ	9	10				19
オオミズナギドリ	2	0	1			3
コサギ			1			1
アオサギ			1			1
コハクチョウ		1				1
オシドリ		1				1
トビ	4	3				7
ツミ			1			1
ハイタカ	2					2
アオゲラ		1				1
コチョウゲンボウ		1				1
チョウゲンボウ	2		1			3
ウミネコ	1					1
アオバズク	2					2
フクロウ	1	2				3
ヒバリ	1	2				3
ツバメ	8	14				22
コシアカツバメ		1				1
ハクセキレイ		1				1
セグロセキレイ		2				2
モズ	1	1				2
ジョウビタキ		1				1
イソヒヨドリ		1				1
シロハラ	1					1
ツグミ	1					1
シマセンニュウ		1				1
メジロ		1				1
カワラヒワ	1					1
ムクドリ	1	1				2
鳥類（種不明）	2	4				6
鳥 類 合 計	44	55	7	0	0	106
鳥獣名（哺乳類）	放野	死亡	安楽殺	飼養継続	その他	合計
タヌキ	1					1
キツネ			1			1
ハクビシン			1			1
ムササビ	1					1
哺 乳 類 合 計	2		2			4
総 合 計	46	55	9	0	0	110

【平成29年度年報 訂正のお知らせとお詫び】

平成29年度年報16ページ③救護した鳥獣種とその結果において、記載に誤りがありました。深くお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正させていただきます。

訂正内容：

福井県獣医師会取扱い（移管・自然保護センター）欄、コウノトリ個体数

【誤】1 【正】2

（9）自然に関する相談

県民や行政などからの自然に関する相談や専門的な質問に回答した。

平成31年度・令和元年度の分野別、内容別の相談件数

分 野 別	件数	内 容 別	件数
哺 乳 類	38	傷 病 鳥 獣	104
鳥 類	228	自 然 一 般	151
そ の 他 脊 椎 動 物	11	自 然 学 習	5
無 脊 椎 動 物	13	マスコミからの問い合わせ	21
植 物	4	行政からの問い合わせ	19
地 形 ・ 地 質	0	そ の 他	0
天 体 ・ 天 文	1	計	300
そ の 他	5		
計	300		

（10）重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア(重点活動地域)への支援事業

県は里地里山の絶滅危惧種が集中して分布している地域として、平成16年度に「福井県重要里地里山」30箇所を指定した。これらの地域において生物多様性の保全と活用を図るため、地域住民や県、市町、専門家等が連携して各地域の里地里山を計画的に保全する活動を支援してきた。

特に希少野生生物が分布する「白山・坂口」、「三方五湖周辺」、「中池見・池河内湿原」、「東尋坊・北潟湖」、「平泉寺・奥越高原」の県内5地域を「生き物共生ホットエリア(重点活動地域)」として選定し、重点的に自然再生活動を推進している。

令和元年度には、あわら市北潟地域（北潟地区）、坂井市陣ヶ岡丘陵地域（安島地区）、勝山市北谷町（小原地区）、六呂師高原、大野市阿難祖の5地域において団体等の活動支援を実施した。

①各支援地域における事業概要

ホットエリア	地 域 名	活動団体	主な事業内容	保全対象種
東尋坊・北潟湖地域	あわら市北潟湖周辺	北潟湖自然再生協議会	①ため池の希少水生昆虫の保全と再生 ・水生昆虫の生息状況調査 ・特定外来生物（ウシガエル等）の駆除 ②湿地性鳥類の生息状況調査 ・カスミ網を使った標識調査 ・センサーカメラによる潜行性鳥類の生息状況調査 ・鳥類の生息に影響を与える特定外来生物アライグマのモニタリング	オグマサナエ、トラフトンボ、アオヤンマ、ネアカヨシヤンマ、チョウトンボ、ミヤケミズムシ、マルケシゲンゴロウ、ノジコ、ヒクイナ等
	坂井市陣ヶ岡丘陵地域周辺	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会	・環境教育の実施（雄島小学校） ・監視カメラのメンテナンス ・侵略的な外来生物（アメリカザリガニ）の駆除	ゲンゴロウ類、ネアカヨシヤンマ、オオコオイムシ等
平泉寺・奥越高原地域	勝山市北谷町	小原ECOプロジェクト	・ミチノクフクジュソウの観察会と保全活動（村岡小学校）	ミチノクフクジュソウ

六呂師 高原周辺	池ヶ原湿原 保全・活用 協議会	①池ヶ原湿原保全・活用協議会の運営 ・保全・活用策の協議と合意形成 ・湿原植物を保全する外来種駆除活動 ②利活用の推進 ・環境教育の実施（平泉寺小学校） ・自然観察会 10回 ③湿原植物を保全する植生管理 ・ヨシの刈り取り ・ハンノキ高木の伐採 ・ハンノキ等低木類の伐採、巻き枯らし ・特定外来生物（オオハングンソウ）の 駆除	ミズチドリ、トキソウ、 ノカンゾウ、カキラン等
大野市 阿難祖	大野市	・保全活動（草刈り、落葉葉枝の除去）	フクジュソウ

②講師派遣の概要

下記のとおり講師派遣を、計12回（4地域540人参加）実施した。

重要里地里山 地域名	活動名・演題	場 所	実施年月日	主催者	参加 人員
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ 保全活動	勝山市小原地区、 勝山市立村岡小 学校	平成31年4月18日 令和元年10月1日 令和元年10月9日 令和元年10月29日	小原ECOプロジ ェクト	約40 29 29
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原自然観察会	勝山市池ヶ原 地区	平成31年4月17日 令和元年5月10日 令和元年7月12日 令和元年11月5日 令和2年1月10日 令和2年1月31日	勝山市立 平泉寺小学校	26 39 26 26 26 21
坂井市 陣ヶ岡丘陵地域	雄島小学校環境教育授 業、坂井市陣ヶ岡丘陵 地自然観察会	坂井市立雄島小 学校、えろもん のふけ、三国町 海浜自然公園	令和元年6月27日 令和元年7月1日	陣ヶ岡丘陵地域 生物多様性保全 協議会、雄島小 学校	43 43

③六呂師高原湿原植生管理支援事業

池ヶ原・妻平湿原では、平成21年度から24年度の緊急雇用創出事業により湿原の植生管理を実施し、希少かつ独自の植生やトンボ類等の多様性を再生させた。その後もこれらの景観や生物多様性を今後も維持していくため、再び成長するヨシやハンノキ等の植生管理を継続して実施している。

<妻平湿原>

・目的

妻平湿原本来の植生を保全するため、ヨシおよびハンノキを管理し、光環境を改善するとともに水深を確保する。

・内容

妻平湿原はミツガシワの県内最大級の生育地であり、他にも多様な湿性植物が生育し、かつて水田であった部分（約1,800㎡）と、以前から湿原であった部分から成り立っている。かつて水田であった部分は、上流から土砂や栄養分の流れ込みが増加し、ヨシ、マコモ等の高茎草本が繁茂しやすい状態になっている。このため、トンボ類の生息にとって好適な開放水面の面積が減少し、以前に比べオオルリボシヤンマ等が観察できなくなっている。

そこで、妻平湿原の南西側では、オオルリボシヤンマやギンヤンマなどの大型のヤンマ類の

産卵環境を維持するため、平成27（2015）年から毎年6月に、職員作業によってヨシやマコモ類の除去を実施している。

一方、六呂師高原のハッチョウトンボは、すでに1978年の調査で確認されず、絶滅したと推定されていた（第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（昆虫類），1979）。ところが2010年代になり、池ヶ原湿原と自然観察の森のトンボ池や妻平湿原で散発的に記録されるようになり、復活の期待が持てるようになった。そこで、これまでの記録地の中から最もハッチョウトンボの生息に適していると推定される妻平湿原の南東側において、平成27（2015）年度から、ハッチョウトンボの定着を目標とする植生管理を行ってきた。

植生管理は、湿地の水生植物群落の背丈を30cm程度に抑えるために、毎年6月に職員作業で、8月にはインターシップ研修において、ヨシの抜き取りやマコモの刈り取りを実施した。その結果、平成27～29年の3ヶ年とも、オスが1頭ずつ、複数回確認された。今後も植生管理を継続する必要がある。

<池ヶ原湿原>

・目的

湿原本来の植生を保全するため、植生保全作業の実施とあわせて、外来植物の除去および園地の維持管理を行う。

・内容

池ヶ原湿原は、ミズチドリやオオミズゴケなど多様な湿性植物が生育する嶺北最大規模の湿原である。しかし、平成20年度以前はヨシ・低木・ハンノキが繁茂し、丈の低い湿性植物の生育を阻害していた。また、湿原内に特定外来生物オオハングンソウが侵入し、かつ管理頻度の低下に伴って園地のヤブ化が進んでいたが、平成21～24年度に緊急雇用創出事業による植生管理（ハンノキ、低木の除去及びヨシの刈り取り）、地下水位の上昇・水質の維持、オオハングンソウの除去等の作業の実施により湿原植生が回復した。平成25年度、「池ヶ原湿原連絡協議会」を設立し、自然保護センターを事務局とする、県、市、地域住民・企業、専門家等の多様な主体の連携による湿原保全の体制を作り保全活動を実施している。なお、会の目的を明確にするため、平成29年4月に、名称を「池ヶ原湿原保全・活用協議会」に改めた。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会構成員

区 分	氏名又は団体名
専門家	小林 則夫 勝山市わくわく学習体験推進隊 北川 博正（副会長）
地域住民	松井 誠一（会長）池ヶ原湿原を守る会
企業	勝山ロータリークラブ マイランE P D合同会社勝山事業所 ケイテークシーノ（株） 山田兄弟製紙（株）
教育機関	勝山市立平泉寺小学校
自然関係団体	ノーム自然環境教育事務所 福井県自然観察指導員の会
行政機関	勝山市商工観光部ジオパークまちづくり課 福井県奥越高原牧場 福井県奥越高原青少年自然の家 福井県自然環境課 福井県自然保護センター

令和元年度は、池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動として、連絡協議会の開催、夏の観察会と外来種駆除活動イベント、平泉寺小学校の環境教育の支援を行った。秋のヨシ刈り活動イベントは荒天予報であったため中止した。また、湿原内の植生保全のため、ヨシの刈り取り、ハ

ンノキ等低木の伐採・環状剥皮、ハンノキ高木の伐採、オオハングンソウの除去を委託により実施した。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動状況

実施日	場所	イベント名	概要	参加人員
令和元年5月17日	奥越高原牧場	連絡協議会 (第1回目)	H30年度活動計画について 湿原現地確認の実施	21
6月23日	池ヶ原湿原	湿原植物観察会 と外来種駆除	湿原植物の観察、湿原内外 のオオハングンソウの除去	49
10月19日 (中止)	池ヶ原湿原	ヨシ刈り活動	台風による荒天予報のため 中止	
令和2年2月21日	勝山市教育会館	連絡協議会 (第2回目)	R1年度事業実施結果報告 R2年度事業計画について	20

○植生保全のための委託作業状況

作業内容	作業時期	作業人員
ハンノキ低木の除去 完全除去：抜取り（手動ウィンチ法）	令和元年10月8日、9日	15.5人・日 (110本)
ハンノキ低木の除去 枯死：環状剥皮（ピーラー法）	令和元年12月6日	1.0人・日 (150本)
ハンノキ等低木類の選択的除去	令和元年5月22日、6月5日、 6月6日	4.0人・日 (約7,000㎡)
ヨシ刈り後低木除去	令和元年11月11日、12月6日	6.0人・日 (約2,000㎡)
オオハングンソウ（特定外来生物）の除去 物理的防除：抜取り	令和元年6月20・21・26日、 7月8日、8月19日	17.5人・日 (約3,600㎡)
オオハングンソウ（特定外来生物の除去） 化学的防除：薬剤塗布	令和元年6月25日、7月5・ 25・26日	7.0人・日 (約750㎡)
計		51.0人・日

その他、湿原の土のう堰を設置した（1か所、補修：令和元年5月20日、新設：令和元年8月19日）。

○自然観察会の開催

池ヶ原湿原の動植物を観察するために、池ヶ原湿原ガイドを、5月～7月の毎週土曜日に1日2回（11：00-12：00、13：15-14：15）開催し、48名の参加があった（7ページ参照）。

（11）侵略的な外来種防除対策（特定外来生物ウチダザリガニ駆除活動）

九頭竜湖に定着したウチダザリガニの生態系被害防止と生息状況把握を目的に、カゴ罟による捕獲・駆除を実施した。平成30年は7月25日～9月21日（58日間）に、箱ヶ瀬地区面谷橋下に8個のカゴ罟を設置し、451個体を捕獲した。本年度の捕獲効率（＝捕獲個体数／（わなの設置数・わなの稼働日数））は0.972であった。

捕獲の詳細と駆除結果

設置期間（日数）	設置個数	回収回数	捕獲数
7月25日～9月21日（58日間）	8個	5回	451匹
＜回収日ごとの捕獲数＞ 7月31日（211匹）、8月8日（157匹）、8月21日（60匹）、9月5日（20匹）、9月21日（3匹）			

3 研修養成事業

自然保護に関心を持つ県民を養成するために、ナチュラリスト登録、リーダー養成講習会等の事業のほか、インターンシップをはじめとする各種研修生の受け入れを行った。

(1) ナチュラリスト養成

福井県ナチュラリスト事務局（自然保護センターと海浜自然センター内に設置）で、自然に関心のある人を「福井県ナチュラリスト」として積極的に登録した。平成26年以前は、登録時に自然情報誌「ナチュラリスト」郵送料500円を必要としていたが、平成27年度から、登録時にメールアドレスを登録すれば、インターネットから自然情報誌「ナチュラリスト」と年度行事カレンダー、年間行事案内チラシを無料でダウンロードできるようにした。（メールアドレス登録者数：平成31年度31人）また、登録特典グッズ（クリアファイルや缶バッジ）を製作し、登録者にはもれなく配布することによりナチュラリスト登録者数の増加を図った。

① クリアファイルの作成・配布

以下のクリアファイルを作製し、新規登録1名につき、いずれか1枚を進呈した。また、既に登録済みのナチュラリストにも、来館やイベント参加の際に希望があれば進呈した。但し、いずれの種類のクリアファイルも1名につき1枚までの進呈とした。

- ・天文（惑星、星座、星団など）（H28年度作成）
- ・六呂師高原 野の花めぐり（H29年度作成）
- ・冬の野鳥レストラン（H29年度作成）
- ・池ヶ原湿原花図鑑（H30年度作成）
- ・生きものの表情（H31年度作成）

② 缶バッジの作成・配布

以下の缶バッジを作製し、ナチュラリスト登録者1名毎に、来館やイベント参加の度に、缶バッジのいずれか1つを進呈した。

- ・福井の生きもの缶バッジ（全36種）
- ・野鳥レストラン缶バッジ（全10種）
- ・六呂師高原 野の花めぐり缶バッジ（全27種）

③ ナチュラリストのメルマガ登録の推進とメルマガ情報の充実

ナチュラリストとメルマガのアドレスの同時登録を推進し、センターのイベント情報、六呂師の生物情報（花、昆虫、野鳥など）、星空情報を積極的に発信した（年間38回配信、配信人数：PC版836人、携帯版221人）。

	新規登録者数			累計 (人)
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
福井県ナチュラリスト登録者	686	506	69	12,463
（自然保護センター分）	(680)	(506)	(69)	(10,580)
（海浜自然センター分）	(6)	(0)	(0)	(1,883)

(2) ナチュラリストリーダー養成

ナチュラリストを指導するリーダーの養成を目的に、下記の講演会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

テ　　ー　　マ	実施年月日	場　　所	参加人数
指導者養成講座 講演会 「旅をするチョウ アサギマダラ ～移動の謎から天敵まで」	令和元年3月20日 (中止)	福井県生活学習館 ユー・アイふくい	—

令和元年度は、ナチュラリストリーダー新規登録は無かった。累計の登録者数は110人。

(3) 研修生受け入れ

福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会の要請を受け大学生のインターンシップ研修として4名を受け入れた。

研修名	依頼元	人数	所属	研修期間
福井県インターンシップ	福井県インターンシップ推進協議会・経営者協会	3	福井県立大学	8月10日～8月14日
		1	福井工業大学	8月10日～8月14日

4 資料収集事業

各分野の標本資料や視聴覚資料、自然に関する文献等の収集や保管を行った。

(1) 標本資料など

標本資料数（件）

取得 分類		哺乳類	鳥 類	魚・両生 ・爬虫類	昆虫類	無脊椎 動 物	植 物 菌 類	岩石・鉱物 ・古生物	天 文	その他
収 集	元年度	3	15	1	66	2	0	89	0	0
	累 計	81	416	95	2,512	49	1,623	131	0	2
購 入	元年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	13	31	14	11	0	614	350	9	0
寄贈・ 寄託	元年度	0	0	0	32	0	0	25	0	0
	累 計	26	161	1	2,334	22	14,117	58	0	33
元年度計		3	15	1	98	2	0	114	0	0
累 計		120	608	110	4,857	71	16,354	539	9	35

(2) 視聴覚資料

視聴覚資料数（件）

取得 分類		脊椎動物		昆 虫		無脊椎動物		植 物		地形・地質		天 文		その他	
		写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像
収 集	元年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	1,843	13	1,702	4	25	0	3,537	0	1,725	4	855	2	514	42
購 入	元年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	0	67	0	30	0	6	0	18	1	34	12	15	8	31
寄 贈	元年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	118	25	547	4	0	1	13	6	47	25	211	86	1	114
元年度計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
累 計		1,961	105	2,249	38	25	7	3,550	24	1,773	63	1,078	103	523	187

(3) 文献資料

文献資料数

取 得 種 類		単行本（冊）	雑誌（冊）	報告書（冊）	その他（冊）
購 入	元年度	15	23	0	0
	累 計	1,358	94	0	0
交換・配付 （その他）	元年度	0	327	87	92
	累 計	0	592	4,193	7,861
寄 贈	元年度	59	0	0	0
	累 計	1,965	62	424	779
元年度計		74	350	87	92
累 計		3,323	748	4,617	8,640

(4) 天文写真資料

好天時や天文現象にあわせて、観察棟天体観測室や野外にて、デジタルカメラによる撮影を行った。撮影した映像はホームページや提供資料に活用し、NHKなどメディア等にも話題提供した。

5 調査研究事業

福井県内の自然環境を把握し、自然保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施した。

(1) 渡り鳥保全調査（鳥類繁殖状況調査）

趣 旨： 福井県内の鳥類の繁殖分布とその変化を明らかにするため、全国鳥類繁殖分布調査の共同実施団体として、鳥類の種類、個体数、繁殖の可能性について調査する。

概 要： 福井県内の18コースを、調査コースごとに2～3人ずつの調査員で実施し、調査マニュアルに従い、5月中旬～6月下旬の午前5時～9時に、それぞれ1回ずつ現地調査を実施した。調査は日本野鳥の会福井県の会員に依頼し実施した。

(2) カモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 鳥類保護行政の基礎資料とすることを目的として、福井県内に渡来するカモ科鳥類の生息状況を把握する。

概 要： この調査は、国（昭和44年度から林野庁、昭和48年度から環境庁、平成12年度から環境省）の依頼により、毎年1月15日前後に、全国一斉に行われているものである。福井県においては昭和52年度以降、県が日本野鳥の会福井県に委託して調査を実施している。令和元年度の調査は、福井県におけるガン・カモ・ハクチョウ類の主要な渡来地となっている17か所の湖沼、河川、内湾、平野部において調査を行った。調査は坂井平野で令和2年1月12日、あわら市北潟湖・福良ヶ池で令和2年1月14日、その他の調査地については令和2年1月13日に実施した。それらの調査地の全域をカバーするように観察地点もしくはルートを設定した上で、各調査地で3～15名の調査員が双眼鏡および望遠鏡により種を判定し、観察されたガン・カモ・ハクチョウ類の種とその個体数を計数器により記録した。

結 果： 計17か所の調査地で、計20種27,616羽のガン・カモ・ハクチョウ類が記録された。昨年度と比較して種数は1種増で、個体数は809羽減少した。今回の調査で、ガン類が2種981羽、ハクチョウ類が1種10羽、カモ類が17種26,625羽記録された。優占度の高かった種は、マガモ54.7%、コガモ13.4%、カルガモ9.8%、ヒドリガモ8.1%であった。上記4種で全体の86.1%を占めている。個体数の増加が大きかった上位4種は、ヒドリガモ799羽増、スズガモ402羽増、オナガガモ296羽増、ホシハジロ156羽増で、逆に減少が大きかった種は、マガモ1,458羽減、コガモ873羽減であった。

成 果： 調査結果は日本全国の結果と統合して集計するため、環境省生物多様性センターに報告した。また、調査結果を下記の報告書にとりまとめ、関係機関等に配布した他、自然保護センターのホームページ上で公開した。

日本野鳥の会福井県（編）. 2020. 令和元（2019）年度カモ科鳥類生息調査報告書. 福井県自然保護センター，大野.

(3) カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 中部、近畿圏におけるカワウ広域保護管理指針策定の基礎資料とするため、福井県内におけるカワウの生息状況を把握する。

概 要： 近年、全国的に個体数が増加し、内水面漁業との間で軋轢が生じているカワウは、行動域が広く県境を越えて移動するため、その被害防止と保護の両立には広域的な保護管理が必要である。そこで、環境省主導のもと、中部近畿カワウ広域協議会が設立され、広域保護管理指針の策定を目指している。この協議会では、カワウの保護管理の基礎資料とするため、各府県が連携してカワウの生息状況を把握することとしており、本県においても日本野鳥の会福井県に委託し、カワウの営巣地・ねぐら調査を年3回実施してきた。今年度も7月、12月、3月において、これまでに判明しているカワウの営巣地・ねぐら12地点（現在利用が無い地点も含む）で、日没前後の入巣・就埒個体数の計数を行った。また、11月～12月には新規営巣地・ねぐらを発見することを目的として、主要な水系沿いでルートセンサスを実施した。

さらに、西日本では、カワウの新たな営巣地やねぐらはサギ類の営巣地への侵入によって形成されることが多いため、主要なサギ類コロニー10地点についても、6月に営巣種と個体数を調査した。

結 果： カワウの営巣確認数は、2019年7月に2地点で計41巣、2020年3月に2地点で計20巣の営巣が確認された。カワウの営巣地・ねぐら12地点における7月、12月および3月の入巣・就峙個体数の合計は、それぞれ215羽、501羽および382羽であった。

成 果： 広域的なカワウの生息状況把握に利用するため、調査結果を中部近畿カワウ広域協議会に報告した。

（４）ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）

趣 旨： クマ大量出没の予測を含むツキノワグマ保護管理の基礎資料とするため、ブナ科樹木の豊凶を把握する。

概 要： クマ類の人里付近への出没件数には年次変動があり、ときに大量出没に至るが、その発生にはクマの秋期における主要な餌であるブナ科樹木の堅果類の豊凶が関与していると考えられている。そこで、クマ大量出没の発生を早期に予測することを目的として、8月中旬から9月上旬にかけて、県全域を対象としてブナ科樹木の樹上における着果状況を目視で調査し、その豊凶を把握した。令和元年は8月9日から9月1日にかけて、ブナ、ミズナラ、コナラの着果状況を調査した。

結 果： 令和元年度における各樹種の県全体の作柄は、ブナ、ミズナラは凶作、コナラは不作であった。これまでの研究の結果、福井県内では山地に多く分布するブナとミズナラの作柄が揃って著しく不良となった平成18年と22年、26年にクマの大量出没が確認されたことから、令和元年秋季は県全域でクマの大量出没が発生する可能性が高いと予測した。

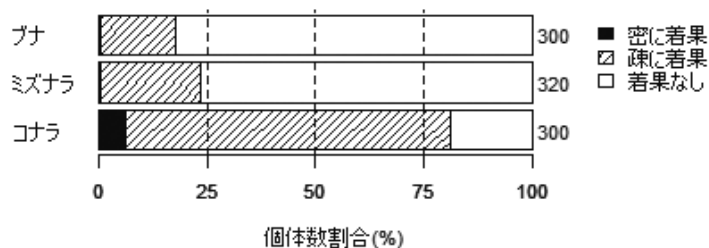


図 樹種ごとの着果区分別個体数割合。棒グラフ右の数字は調査木数。

成 果： 県は本調査結果にもとづき令和元年9月13日に開催した「平成30年度ツキノワグマ出没対策連絡会」において、出没予測を発表した。令和元年度の福井県における秋期のツキノワグマ出没件数は597件と例年を大きく上回り、この予測は的中したと言える。また、大野市からの依頼を受け、9月19日に大野市ツキノワグマ出没対策連絡会へ、令和元年10月10日に大野市クマ出没対策本部会議に出席し、出没予測の発表と出没時の対応確認を行った。

（５）ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業

趣 旨： 国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの生息域外保全を行うために、人工飼育の方法を確立する。

概 要： 飼育室において成虫の交尾、産卵、孵化の一連の飼育を行い、飼育方法を研究した。

結 果： 令和元年度は前年度からの成虫を引き続き飼育し、6月から産卵床を設置したところ、その際に飼育していたメスから卵が得られた。得られた卵から約70個体が孵化したが、孵化してすぐに死亡する個体が約20個体あった。生存個体についても、餌となるミジンコ類が確保できなかったため、代替餌としてアリ類の卵や幼虫を与えてみたところ、摂食はしたがほとんどは1令のうちに死亡した。5個体が2令になったが、いずれも死亡したため令和元年度の上陸羽化個体は0であった。令和元年11月15日には越前松島水族館で開催されたヤシャゲンゴロウ生息域外保全検討会で他機関との情報交換を行った。

(6) Ciconia (福井県自然保護センター研究報告) の発行

趣 旨： センターの調査事業および福井県内の自然に関する調査研究報告を一般に募集し、編集・発行する。

概 要： Ciconia vol.23掲載論文の一覧

- ・日本野鳥の会福井県サギ類調査グループ．福井県におけるサギ類のコロニーの分布と種構成：2016年サギ類コロニー調査の結果．
- ・福井県自然保護センター．福井県におけるカワウの生息状況：カワウ生息調査事業2007～2018年度．
- ・香川正行・田淵千鶴子・北川博正・鈴木聡．越前町立福井総合植物園プラントピアに生息する哺乳類．
- ・國永知裕．福井県自然保護センター周辺における自動撮影カメラによる中・大型哺乳類相調査
- ・梅村信哉・利田悠真．福井市内におけるキマダラカメムシの採集記録．
- ・梅村信哉．勝山市大長山におけるヤドリホオナガスズメバチの記録．
- ・梅村信哉．福井県内におけるアワダチソウゲンバイとプラタナスゲンバイの記録．
- ・梅村信哉．大野市温見におけるアカエゾゼミ *Lyristes flammatus* (Distant) の採集記録．
- ・大宮正太郎．鳴き声の音声分析によって確認した福井県におけるエゾゼミ類3種の記録．
- ・福井県自然保護センター．2018年の福井県におけるブナ科樹木3種の着果状況．

6 そ の 他

(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

福井県自然保護関係機関連絡会議は、福井県の自然環境や自然保護に関する調査研究を行っている機関相互の情報交換、共有化を促進し、ネットワークの強化を図るとともに、科学的情報に基づく自然保護の推進に役立てることを目的として設置した組織である。自然保護センター所長が議長となっており、下記の機関が加盟している。年に1回調査研究・活動事例発表会を開催している。

越前町立福井総合植物園、福井市自然史博物館、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所

令和元年度には、下記の事業を実施した。

- ・福井県自然保護関係機関連絡会議および調査研究・活動事例発表会の開催を令和2年2月29日に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。会議で議論する予定であった次年度の連携方針については後日書面により協議を実施した。
- ・ナチュラリスト89号において「ふくいSATOYAMA学級2020行事案内」を発行

(2) 大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力

自然保護センターでは市町等の要請があった際に、大型野生動物の麻酔銃による保定および放獣の指導を実施している。平成31年度・令和元年度は、11件出動した。市街地におけるツキノワグマの出没が数件発生し、麻酔銃を所持し出動したが、大型の獣類に対して麻酔銃猟を実施する場合、麻酔薬の効力が現れるまでに時間を要し、さらに麻酔銃で撃たれたことにより対象個体が興奮し、従事者が反撃を受けたり、周辺の住民、住宅等に重大な危害または損害を及ぼす可能性が高まるおそれがあるため、麻酔処置は実施しなかった。

対応した大型野生動物個体の一覧

月日	市町	種名	成・幼の別	性別	麻酔処置
6月10日	永平寺町	ツキノワグマ	成獣	雄	実施
7月10日	勝山市	ツキノワグマ	成獣	雄	実施
10月11日	南越前町	ツキノワグマ	成獣 幼獣	雌 雄	実施 実施
10月16日	勝山市	ツキノワグマ	成獣	雄	実施
10月17日	勝山市	ツキノワグマ	成獣	雄	実施
10月22日	勝山市	ツキノワグマ	成獣	雄	未実施
10月26日 27日	勝山市	ツキノワグマ	成獣 幼獣	雌 雌	未実施
12月6日	坂井市	ツキノワグマ	不明	不明	未実施
12月23日	大野市	ツキノワグマ	成獣	雌	未実施

(3) 職員の派遣

他機関等からの要請に応じ、センターの担当職員を講師として派遣した。

講 師	活動名・演題	場 所	実施年月日	主 催 者
國永知裕 松田知也	いずみの活動計画作り	勝山市立 平泉寺小学校	平成31年4月17日	勝山市立平泉寺小学校
國永知裕	ミチノクフクジュソウ開花観察会	勝山市北谷町	平成31年4月18日	小原ECOプロジェクト

國永知裕 山内良幸 山岸登美子	池ヶ原湿原自然観察会	勝山市平泉寺町 池ヶ原	令和元年 5 月 10 日	勝山市立平泉寺小学校
大宮正太郎	大野の自然について考えよう	大野市立 下庄小学校	令和元年 6 月 20 日	大野市立下庄小学校
大宮正太郎 山内良幸	えろものふけ等の水生生物 観察会	坂井市三国町 陣ヶ岡丘陵地	令和元年 7 月 1 日	坂井市立雄島小学校
大宮正太郎	木瓜川の生きもの観察	大野市木瓜川 緑地	令和元年 7 月 11 日	大野市下庄小学校
佐野沙樹 大宮正太郎 松田知也	池ヶ原湿原自然観察会	勝山市平泉寺町 池ヶ原	令和元年 7 月 12 日	勝山市立平泉寺小学校
佐野沙樹	福井県の自然環境部局におけ る外来植物対策取り組み事例	AOSSA (福井市)	令和元年 7 月 19 日	北陸作物・育種学会
佐野沙樹	中岳の動植物	奥越高原青少年 自然の家	令和元年 8 月 8 日	奥越高原青少年自然の 家
佐野沙樹	赤兎山の外来植物除去活動	赤兎山	令和元年 9 月 7 日	小原ECOプロジェクト
大宮正太郎	獣の生態や特徴について	永平寺町 緑の村ふれあい センター	令和元年 9 月 27 日	永平寺町鳥獣害対策協 議会
佐野沙樹	ミチノクフクジュソウの生態 について	勝山市立 村岡小学校	令和元年 10 月 1 日	小原ECOプロジェクト
佐野沙樹	ミチノクフクジュソウ保全作 業	勝山市北谷町	令和元年 10 月 9 日	小原ECOプロジェクト
大宮正太郎	クマの生態等について	勝山市立 成器南小学校	令和元年 10 月 29 日	勝山市立成器南小学校
大宮正太郎	里山の生き物の生態について ーイノシシ・サル等との付き 合い方ー	福井市 清水西小学校	令和元年 11 月 9 日	福井市清水西小学校 P T A
佐野沙樹	池ヶ原湿原ジオラマ作成につ いて	勝山市立 平泉寺小学校	令和 2 年 1 月 31 日	勝山市立平泉寺小学校

(4) イベント等での出張展示

担当者	イベント等の名称	開催場所	開催年月日	展示内容
大宮正太郎	狩猟の魅力まるわか りフォーラム	大野市結とびあ	令和元年 10月14日	狩猟鳥獣の剥製・動画・解説パネ ル等の展示
大宮正太郎	ふるさと環境フェア 2019	福井県産業会館 1号館	令和元年 11月23日	六呂師高原の生きものを剥製や標 本、パネル等により紹介した他、 池ヶ原湿原保全活動の紹介や、ヨ シストローの工作体験を実施
佐野沙樹	白山ユネスコエコ パークフェア	イオン御経塚 ショッピング センター	令和元年 11月23・24日	池ヶ原湿原で刈取りをしたヨシで ストロー工作体験を実施

(5) 委員の受託など

他機関等から委嘱された委員等への就任を受託した。

氏名	団体名称	事務局
大宮正太郎	北潟湖自然再生協議会	あわら市生活環境課

(6) 事業協力を行った関係団体

以下の団体・機関等と連携・協力して各事業を実施した。

① 指導普及事業

ア 自然観察会など

福井県自然観察指導員の会、日本野鳥の会福井県、福井ライフ・アカデミー、福井大学理数系教員養成拠点構築事業

イ 自然愛護

福井県獣医師会

ウ 里地里山の保全、普及

安島区自治会、えろもんのふけを守る会、越前松島水族館、坂井市環境推進課、小原ECOプロジェクト、勝山市立村岡小学校、環境省白山保護官事務所、勝山市教育委員会史蹟整備課、福井県奥越農林総合事務所、福井大学教育地域科学部地域政策講座、平泉寺町まちづくり推進協議会、マイランEPD合同会社、ケイテーテクシーノ株式会社、勝山ロータリークラブ、ノーム自然環境教育事務所、福井県自然観察指導員の会、山田兄弟製紙株式会社、勝山市立平泉寺小学校、勝山市ジオパークまちづくり課、奥越高原青少年自然の家、福井県奥越高原牧場

エ 天体観望会など

オヤット天文クラブ、ハツ杉天体観測所、奥越星を見る会、奥越高原青少年自然の家、東山いこいの森キャンプ場

オ 職員派遣

小原ECOプロジェクト、陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会、福井県奥越高原青少年自然の家、勝山市立平泉寺小学校、勝山市立村岡小学校、大野市立開成中学校、大野市立上庄中学校、福井県自然観察指導員の会、勝山市わくわく体験学習推進隊

② 研修養成事業

福井県自然観察指導員の会、福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会、福井県教育研究所

③ 調査研究事業

日本野鳥の会福井県、石川県白山自然保護センター、富山県農林水産総合技術センター

④ 福井県自然保護関係機関連絡会議事業

福井市自然史博物館、越前町立福井総合植物園、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県里山里海湖研究所

Ⅲ

その他

1 1年のあゆみ

月日	内容
4月8日	ツキノワグマ出没対策連絡会（県庁 正庁）
4月18日～4月24日	特別展「愛鳥週間ポスター入賞作品展」（自然保護センター）主催：自然環境課
4月18日	村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全活動（勝山市）主催：小原ECOプロジェクト
4月27日～7月14日	特別展「六呂師高原の動物はくせい展示」（自然保護センター）
4月28日	天文教室「春の星座めぐり」（自然保護センター）
4月29日、5月5日、6日	特別観望会「星空観望ゴールデンウィーク～春の銀座とみずがめ座流星群～」（自然保護センター）
5月3日～5日	ゴールデンウィーク特別企画「森の材料で工作しよう」（自然保護センター）
5月10日	平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会（勝山市）
5月17日	池ヶ原湿原保全・活用協議会（福井県奥越高原牧場）
5月18日～7月20日（毎週土曜日）	池ヶ原湿原ガイド（勝山市）共催：福井県自然観察指導員の会
5月25日	里山観察ウォーク「新緑の池田・志津原溪谷を歩こう」（池田町）共催：福井県自然観察指導員の会
6月2日	天文教室「星景写真撮影に挑戦！（固定撮影part I）」（自然保護センター）
6月8日	里山観察ウォーク「初夏の香りの法恩寺山～中ノ平避難小屋周辺でハイキング～」（勝山市）共催：福井県自然観察指導員の会
6月13日、14日	九頭竜ダムコクチバス駆除（大野市）主催：県水産課
6月29日	北潟湖自然再生協議会総会（あわら市）主催：北潟湖自然再生協議会
7月1日	雄島小学校陣ヶ岡丘陵地自然観察会（坂井市）
7月7日	特別観望会「七夕の夜～織姫と彦星に会おう～」（自然保護センター）
7月12日	平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会（勝山市）
7月20日～9月23日	特別展「ふくい星空写真展」（自然保護センター）
7月20日～8月31日	ミニ展示「ふくいの猛禽類」（自然保護センター）
7月20日	夏休み標本教室「美しい植物標本をつくろう」（自然保護センター）共催：福井県自然観察指導員の会
7月21日	天文教室「天体望遠鏡を作ってみよう！」（自然保護センター）
8月2日	天文教室「星の星座めぐり」（自然保護センター）
8月3日	夏休み標本教室「作ってみよう昆虫標本」（自然保護センター）共催：福井県自然観察指導員の会
8月3日	夏休み特別企画「光に集まる虫を観察しよう！（ライトトラップ）」（自然保護センター）
8月6日	天文教室「スマホやケータイで星を撮ろう」（自然保護センター）
8月11日	夏休み特別企画「鷹匠デモンストラーション」（自然保護センター）
8月12日	特別観望会「ペルセウス座流星群ってなあに？～月夜のスターウォッチング～」（自然保護センター）
8月30日	天文教室「天の川の撮影に挑戦！（固定撮影part II）」（自然保護センター）
9月7日	里山観察ウォーク「柳ヶ瀬山と玄蕃尾城の自然と歴史」（敦賀市）共催：福井県自然観察指導員の会
9月12日	自然保護センター運営会議（自然保護センター）
9月13日	ツキノワグマ出没対策連絡会（県庁 正庁）
9月13日	特別観望会「中秋の名月～今宵月面をつかむ～」（自然保護センター）
9月15日、16日	アルプス音楽祭「押し葉のしおり作り」「自然の材料で工作しよう」（ウォーキングセ

- ンター)
- 9月15日 特別観望会「星空観望シルバーウィーク 月・木星・土星をみよう～ジャズの音色を聞きながら～」(自然保護センター)
- 9月18日 大野市ツキノワグマ出没対策連絡会(大野市)主催:大野市
- 9月27日 永平寺町有害獣対策研修会～けものから身を守るために～(永平寺町)主催:永平寺町鳥獣害対策協議会
- 10月9日 村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全活動(勝山市)主催:小原ECOプロジェクト
- 10月10日 大野市クマ出没対策本部会議(大野市)主催:大野市
- 10月14日 狩猟の魅力まるわかりフォーラム(大野市)主催:環境省
- 10月25日 天文教室「秋の星座めぐり」(自然保護センター)
- 10月26日 里山観察ウォーク「三里浜砂丘の森を歩こう」(坂井市)共催:福井県自然観察指導員の会
- 11月3日 特別観望会「銀河の嬢王『アンドロメダ大銀河』」(自然保護センター)
- 11月9日 清水西小学校PTA研修会(福井市)主催:清水西小学校PTA
- 11月15日 ヤシャゲンゴロウ生息域外保全検討会(坂井市)主催:環境省中部地方環境事務所
- 11月23日、24日 白山ユネスコエコパークフェア(石川県野々市市)主催:白山ユネスコエコパーク協議会
- 11月23日 ふるさと環境フェア(福井市)主催:環境ふくい推進協議会
- 12月14日 自然講座「愛鳥教室 雁行観察会～魂を揺さぶるマガンの鳴き声を聴こう～」(あわら市)共催:福井県自然観察指導員の会
- 12月23日 北潟湖自然再生協議会総会(あわら市)主催:北潟湖自然再生協議会
- 1月5日～2月29日 冬の野鳥レストラン(自然保護センター)
- 1月26日～2月5日 特別展「白山国立公園パークボランティア写真展」(自然保護センター)主催:環境省白山国立公園自然保護官事務所
- 2月4日 普及誌「ナチュラリスト」発行
- 2月8日 里山観察ウォーク「スノーシューで森の探検」(自然保護センター)共催:福井県自然観察指導員の会
- 2月16日～4月5日 ミニ展示「池ヶ原湿原展」(自然保護センター)
- 2月21日 池ヶ原湿原保全・活用協議会(勝山市教育会館)
- 2月27日 普及誌「ナチュラリスト」発行
- 3月19日 普及誌「ナチュラリスト」発行
- 3月26日 福井県自然保護センター研究報告「Ciconia」発行

2 施設利用実績

① 利用実績表

ア 本館・野外（館内・自然観察の森ガイド）（ ）内は内数 （人）

区 分		団 体	一 般	合計人数
本 館		99団体 5,628	15,756	21,384
内 訳	本館見学	(69団体 4,087)	(14,987)	(19,074)
	館内・自然観察の森ガイド	(30団体 1,541)	(769)	(2,310)

イ 観察棟（天体観望会およびプラネタリウム等）（ ）内は内数 （人）

区 分		団 体	一 般	合計人数
観 察 棟		76団体 3,847	4,960	8,807
内 訳	天体観望会	(29団体 1,574)	(1,120)	(2,694)
	プラネタリウム	(47団体 2,273)	(1,901)	(4,174)
	特別観望会・天文教室		(743)	(743)
	昼の天体観望会		(1,196)	(1,196)

② 団体利用内訳

ア 本館 H31、R1

月	団体数	人数	団 体 数		内 訳					
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小 学 校		中 学 校		高 校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	308	0	120	72	116	0	0	0	0
6	4	449	45	0	404	0	0	0	0	0
7	6	234	125	64	0	45	0	0	0	0
8	8	368	200	111	0	0	0	0	0	57
9	4	241	35	0	0	122	0	0	32	52
10	3	126	0	61	0	35	0	0	30	0
11	31	1,774	441	356	476	318	0	0	62	121
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	7	512	130	208	115	0	0	0	0	59
2	2	75	0	0	50	0	0	0	0	25
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	69	4,087	976	920	1,117	636	0	0	124	314

イ 野外（観察の森ガイド等）

月	団体数	人数	団 体 数		内 訳					
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小 学 校		中 学 校		高 校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	180	0	122	0	58	0	0	0	0
6	4	216	89	0	127	0	0	0	0	0
7	6	241	60	136	0	45	0	0	0	0
8	7	453	317	27	0	0	0	0	109	0
9	3	186	35	40	0	111	0	0	0	0
10	2	101	0	101	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	2	112	0	112	0	0	0	0	0	0
2	2	52	0	52	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	30	1,541	501	590	127	214	0	0	109	0

ウ 天体観望会（夜・昼）

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	354	0	0	10	344	0	0	0	0
6	7	335	67	0	236	0	0	32	0	0
7	4	179	66	0	0	45	0	0	0	68
8	10	449	288	0	0	0	0	0	78	83
9	2	145	34	0	0	111	0	0	0	0
10	2	112	0	0	0	35	77	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	29	1,574	455	0	246	535	77	32	78	151

エ プラネタリウム

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	5	426	0	0	82	152	0	192	0	0
6	9	449	67	48	302	0	0	32	0	0
7	10	297	171	66	0	45	0	0	0	15
8	14	692	306	30	0	0	0	0	78	278
9	4	177	34	0	0	111	0	0	32	0
10	3	127	15	0	0	35	77	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	1	45	0	0	0	0	0	0	0	45
1	1	22	0	0	22	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	47	2,273	593	144	406	343	77	224	110	338

3 運営会議

- ・福井県自然保護センターを効率的に運営するために、運営会議を設置した。

福井県自然保護センター運営会議委員 任期 平成31年度・令和元年度～2年度

	氏 名	勤 務 先 ・ 所 属 団 体	専門分野等
会 長	保科 英人	福井大学教育学部 准教授	昆虫
副会長	多田 雅充	福井県自然観察指導員の会 会長	植物
委 員	上藤 正純	大野市 産経建設部 商工観光振興課長	行政
委 員	酒井 敬治	日本野鳥の会福井県 代表	鳥類
委 員	山本 俊夫	奥越星を見る会 会長	天文
委 員	坂本 道子	ノーム(GNOMES)自然環境教育事務所 副代表	自然教育
委 員	山田 徹夫	大野市民生環境部福祉こども課課長	幼児教育
委 員	松井 香織	勝山市健康福祉部福祉・児童課子育て相談室長	幼児教育
委 員	青木 知代	大野市阪谷小学校 校長	学校教育
委 員	小林 康浩	勝山市教育研究会 理科部会長 (勝山市立成器南小学校 校長)	学校教育

※所属等は平成31年4月1日現在。

4 関係条例・規則

○福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
平成二年三月二十七日
福井県条例第四号
改正 平成八年三月三十一日条例第一二号
平成十一年三月一六日条例第一四号
平成二六年三月二〇日条例第一号
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
を公布する。

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例

(設置)
第一条 自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の
向上に寄与するため、福井県自然保護センター（以下「セ
ンター」という。）を設置する。
(位置)
第二条 センターは、大野市に置く。
(業務)
第三条 センターは、次に掲げる業務を行う。
一 自然の観察、研究等のために必要な施設または設備
の提供
二 自然の観察、研究等のために必要な助言または指導
三 自然に関する研修会、講習会等の開催
四 自然に関する資料の収集、保管および展示
五 自然に関する調査および研究
六 前各号に掲げるもののほか、センターの設置の目的
にふさわしい業務
(職員)
第四条 センターに、所長その他必要な職員を置く。
(施設等の使用の承認)
第五条 センターの施設または設備を使用しようとする者
は、知事の承認を受けなければならない。
(使用料)
第六条 センターの施設または設備を使用する者は、別表
に掲げる使用料を納付しなければならない。
2 既に納付した使用料は、還付しない。ただし、知事が
特に必要があると認めるときは、この限りでない。
(使用料の減免)
第七条 知事は、特に必要があると認めるときは、使用料
の全部または一部を免除することができる。
(委任)
第八条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定め
る。
附 則
この条例は、平成二年四月一日から施行する。
附 則（平成八年条例第一二号）
この条例は、平成八年四月一日から施行する。
附 則（平成十一年条例第一四号）
この条例は、平成十一年四月一日から施行する。
附 則（平成二六年条例第一号）抄
(施行期日)
1 この条例は、平成二十六年四月一日から施行する。
別表（第六条関係）
(平八条例一二・平一一条例一四・平二六条例一・令元
条例四・一部改正)
一 施設

区 分	金 額		
	9時から 12時まで	12時から 17時まで	9時から 17時まで
レクチャーホール	2,830円	4,610円	7,440円
会 議 室	750円	1,360円	2,120円
工 作 室	1,470円	2,300円	3,770円

二 設備

区 分	金額1回（5時間以内）につき
ワイヤレスマイク	200円
カセットテープレコーダー	200円
スライド映写機	540円
十六ミリ映写機	2,930円
ビデオテープレコーダー	1,360円

○福井県自然保護センターの管理運営に関する規則
平成2年3月27日
福井県規則第4号
福井県自然保護センターの管理運営に関する規則を公布
する。

福井県自然保護センターの管理運営に関する規則

(趣旨)
第一条 この規則は、福井県自然保護センターの設置およ
び管理に関する条例（平成二年福井県条例第四号。以下
「条例」という。）第八条の規定に基づき、福井県自然保
護センター（以下「センター」という。）の管理および運
営に関し必要な事項を定めるものとする。
(開館時間および入館時間)
第二条 センターの本館の開館時間は、午前九時から午後
五時までとする。ただし、入館時間は、午後四時三十分
までとする。
2 センターの観察棟の開館時間は、午前九時から午後九
時三十分までとする。ただし日曜日の開館時間は、午前
九時から午後五時までとする。
3 福井県自然保護センター所長（以下「センター所長」
という。）は、必要があると認めるときは、前二項の開館
時間および入館時間を変更することができる。
(休館日)
第三条 センターの休館日は、次に掲げる日とする。ただ
し、第一号または第二号に掲げる日が七月二十一日から
八月三十一日までの日である場合には、休館日としない
ものとする。
一 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法
律第七十八号）第三条に規定する休日（以下「休日」
という。）に該当する場合を除く。）
二 休日の翌日（土曜日、日曜日または休日に該当する
場合を除く。）
三 十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二
号に該当する場合を除く。）
2 センター所長は、必要があると認めるときは、前項の
休館日を変更することができる。
(平一三規則二九・平一五規則一四・一部改正)
(入館の拒否)
第四条 センター所長は、センターに入館しようとする者
が次の各号のいずれかに該当するときは、入館を拒否す
ることができる。
一 他人に危害を加え、または迷惑を及ぼすおそれがあ
るとき。
二 施設または展示品を損傷するおそれのあるとき。
三 前二号に掲げるもののほか、センターの管理上支障
があると認められる行為をするおそれのあるとき。
(入館者の遵守事項)
第五条 センターに入館した者（以下「入館者」という。）
は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一 展示品（特に指定した展示品を除く。）に触れない
こと。
二 展示品の近くで、インキ、墨等を使用しないこと。
三 承認を受けないで展示品の構造、模写または撮影を
しないこと。
四 所定の場所以外で喫煙または飲食をしないこと。

- 五 他人に危害を及ぼし、または迷惑となる行為をしないこと。
- 六 その他係員の指示に従うこと。
- 2 センター所長は、入館者が前項の規定に違反したときは、その者に対して退館を命じ、または必要な措置をとることができる。
- (施設等の使用の承認)
- 第六条 条例第五条の規定により、センターの施設または設備の使用の承認を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用承認申請書（様式第一号）をセンター所長に提出しなければならない。
- 2 センター所長は、前項の申請に対し使用を承認したときは、福井県自然保護センター使用承認書（様式第二号）を交付する。
- (使用者の遵守事項)
- 第七条 センターの施設または設備を使用する者（以下「使用者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
- 一 承認を受けた使用内容を変更しないこと。
 - 二 センターの施設または設備をき損し、または汚損しないこと。
 - 三 使用の承認を受けた施設もしくは設備を転貸し、または当該承認に基づく権利を譲渡しないこと。
 - 四 館内の秩序または風俗を乱す行為をしないこと。
 - 五 承認を受けないで作品、物品等の販売、寄附金の募集、立看板の掲示その他これらに類する行為をしないこと。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、センターの管理上支障がある行為をしないこと。
- 2 センター所長は、使用者が前項の規定に違反したときは、センターの使用の承認を取り消すことができる。
- 3 使用者は、センターの施設または設備の使用を終了したときは、原状に回復しなければならない。
- (使用料の還付)
- 第八条 条例第六条第二項ただし書の規定により、次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を還付することができる。
- 一 災害その他不可抗力により、施設または設備の使用ができなくなったとき。
 - 二 その他センター所長がやむを得ない事由があると認めるとき。
- 2 使用料の還付を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料還付申請書（様式第三号）に領収書または福井県自然保護センター使用承認書を添えてセンター所長に提出しなければならない。
- (使用料の減免)
- 第九条 条例第七条の規定により、使用料を減免することができる場合およびその減免の額は、次に掲げるとおりとする。
- 一 県、県内の市町または県内の小学校、中学校、高等学校もしくは特別支援学校が主催する県民のための自然教育、自然保護等に関する事業に使用するとき 使用料に相当する額
 - 二 その他センター所長が特に必要があると認めるとき センター所長が必要と認める額
- 2 前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料減免申請書（様式第四号）をセンター所長に提出しなければならない。
- 3 センター所長は、前項の申請に対し減免を承認したときは、福井県自然保護センター使用料減免承認書（様式第五号）を交付する。
- (平一八規則九・平一九規則二三・一部改正)
- (施設等の損傷または滅失の届出)
- 第十条 入館者および使用者は、センターの施設、設備等を損傷し、または滅失したときは、遅滞なくその旨をセンター所長に届け出て、その指示に従わなければならない。
- (その他)
- 第十一条 この規則で定めるもののほか、センターの管理および運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。
- 附 則
この規則は、平成二年四月一日から施行する。
- 附 則（平成三年規則第一九号）
(施行期日)
- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- (様式に関する経営措置)
- 2 この規則による改正前の様式に基づいて作成した用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

- 附 則（平成一三年規則第二九号）
この規則は、平成十三年四月一日から施行する。
- 附 則（平成一五年規則第一四号）
この規則は、平成十五年四月一日から施行する。
- 附 則（平成一八年規則第九号）抄
(施行期日)
- 1 この規則は、平成十八年三月三日から施行する。
- 附 則（平成一九年規則第二三号）抄
(施行期日)
- 1 この規則は、平成十九年四月一日から施行する。
- 様式第1号（第6条関係）（平3規則19・一部改正）

年 月 日				
福井県自然保護センター所長様				
申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名				
福井県自然保護センター使用承認申請書				
福井県自然保護センターの施設（設備）を使用したいので、次のとおり申請します。				
事業名				
主催者名	所在地		電 話	
	名 称		代表者	
使用施設（設備）				
使用の概略	事業の概要			
	入場料徴収の有無 有 無 (料金 円)			
	推定入場人員数			
使用期間	設置する造作物			
	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで			

様式第4号（第9条関係）

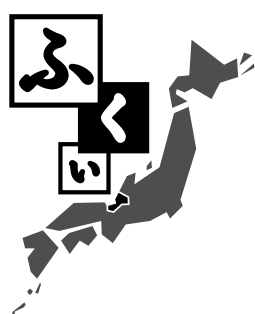
年 月 日				
福井県自然保護センター所長様				
申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名				
福井県自然保護センター使用料減免申請書				
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例第7条の規定により、次のとおり使用料の全部（一部）を免除してくださるよう申請します。				
減免申請の理由				
事業名				
使用施設（設備）				
使用期間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで			
減免を受けようとする額	円			

発 行 日 令和 2 年11月

編集・発行 福井県自然保護センター
〒912-0131
福井県大野市南六呂師169-11-2
電話 0779-67-1655
F a x 0779-67-1656

印 刷 (株)松浦印刷所
電話 0779-66-2357

20. 11. 14930



健康長寿な福井です。



福井県自然保護センター

この冊子は再生紙を使用しています